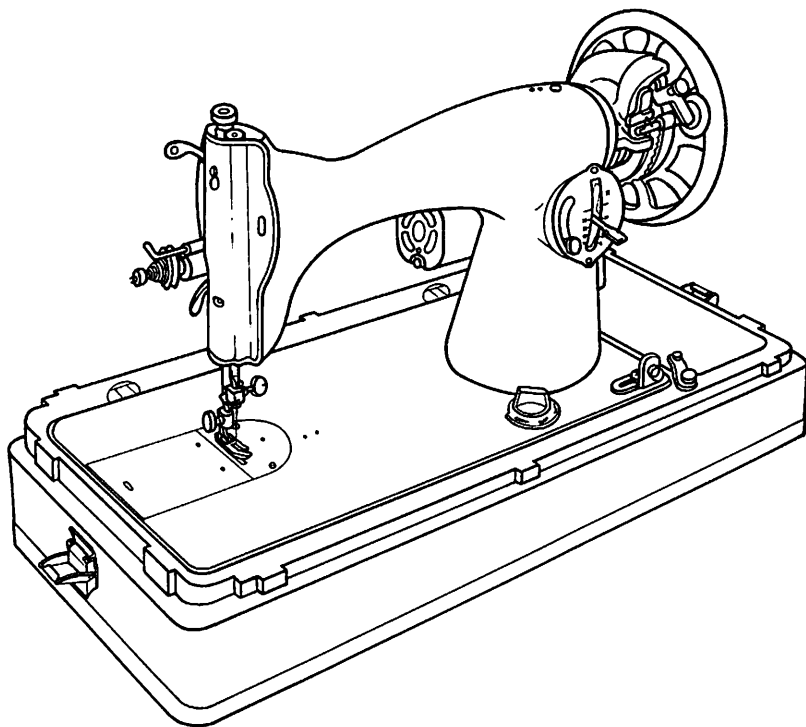


アンティークミシン "HA-1"

取扱い説明書



この度は本格的直線縫いミシン "HA-1" をご購入いただき、まことにありがとうございます。

本製品は過去一般的に使われていた直線縫いミシンを、現在の小型家庭用ミシンに飽き足りない方や、レトロなフィーリングを楽しみたい方のために、卓上電動型として復刻したものです。

機能や機構自体は非常にシンプルなものとなっておりますが、現在の小型家庭用ミシンとは、多少操作の面で違いがございますので、ご使用になる前に本書をよくお読みいただき、操作方法を十分ご理解の上お使いください。

正しくお取り扱いくだされば、楽しいソーイングのパートナーとして末永くお使いいただけます。

まずお読みください

- 安全にご使用いただくために 1ページ

縫う為の準備

- 箱から出したら 2ページ
- ミシン各部の名前 別紙
- 各部の基本的な操作 3ページ
- 下糸の巻き方 4~5ページ
- 下糸ポビンのセット方法 6ページ
- 上糸のかけ方 7ページ
- 下糸の引き上げ 8ページ
- 送りの調節 8ページ

基本的な縫い方

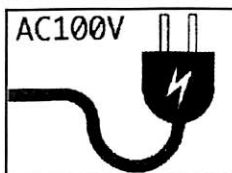
- 縫ってみましょう 9ページ
- 縫うときの操作 10ページ

保守とサービス

- ミシンの手入れ 11ページ
- こんなときは 12ページ
- 修理サービス要領 13ページ
- サービス工場のご案内 裏表紙

●安全にご使用いただくために このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守って下さい。

警告 死亡、感電、火災の恐れがあります。



一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
次のような場合には電源プラグを抜いてください。

- ・ミシンのそばを離れるとき。
- ・ミシンを使い終わったとき（保管するとき）。
- ・ミシンの使用中に停電したとき。

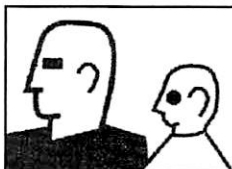
コントローラはできるだけ足の裏で踏むようにし、上に座布団などを載せないでください。

注意 感電、火災、けがなどの原因となります。



ミシンの運転中には、針から目を離さないようにし、モーター、ベルト、はずみ車、てんびんなどの可動部に十分に注意を払い、手や髪の毛などを巻き込まないようにしてください。

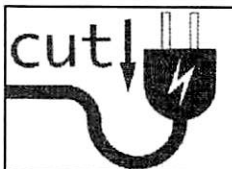
また、それらの周りに糸や布などの巻き込まれやすいものは置かないようにしてください。



お子さまの近くでご使用になる時には特にご注意ください。

保管の際にも、お子さまが触られないようにご注意ください。

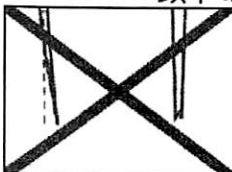
もし、お子さまがご使用になるときはできる限り保護者のかたが付き添うようにしてください。



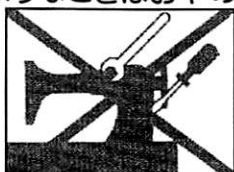
次のようなときは電源プラグを抜いてください。

- ・針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
- ・説明書にあるミシンの手入れを行なうとき。
- ・原則として上糸、下糸をセットするとき。

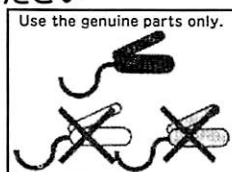
以下のようなことはおやめください



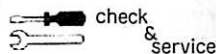
曲った針、傷んだ針の使用



お客様ご自身での分解、改造



純正指定部品以外の使用
(コントローラなど)



ミシン、フットコントローラに次のような異常があるときはすみやかに使用を停止しご購入店または当社指定のサービス店にて、点検、修理、調整をお受けください。

- ・正常に作動しないとき。
- ・落下などにより破損したとき。
- ・水に濡れたとき。
- ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・異臭、異音のするとき。

サービスお問い合わせ先
説明書最終ページ参照

このミシンの取扱いについてのご注意

この製品は比較的重量がありますので（梱包状態で約16キログラム）、作業する場所や保管場所にはこの重量に耐える安定した場所をお選びください。

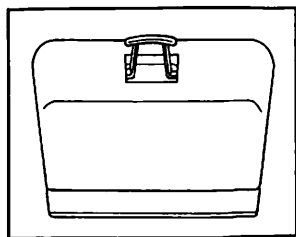
また、持ち運びされる際にはカバーのロックが完全であるかを十分に確認し、落下させないようにご注意ください。



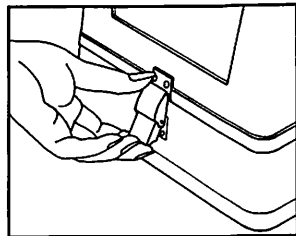
縫う為の準備

箱から出したら

約15.3キログラムの重さがありますので箱から出すときには慎重に引き出してください。

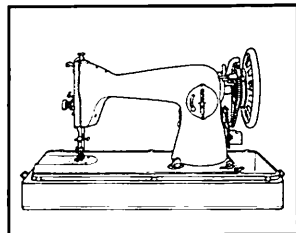


カバー両端のロックを外し、上部のハンドルを持ってカバーを持ち上げます。

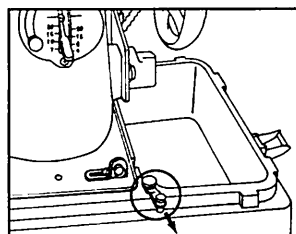


ミシンを囲んでいる緩衝材を取り除きます。2つの緩衝材の間に、コントロールが詰められていますので、注意してください。

(修理等の輸送時に必要ですので、できる限り緩衝材と外箱は保存しておいてください)



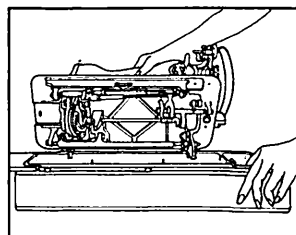
図の丸で囲んだストッパーを矢印の方向になるように回し、付属品を取り出して、全て揃っているかを確認してください。



図のようにミシンをしっかりと持ち、向こう側へ引き上げます。

(ヒンジになっています)

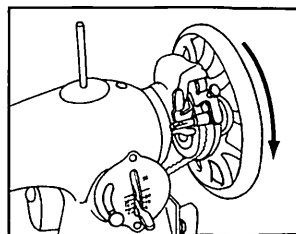
ミシンの下に敷いてある緩衝材を取り除き、ミシンを元の状態に戻して、先ほどのストッパーをミシン側に向けておきます。



はずみ車を回してみても異常がないかを確認します。

*はずみ車はいつでも、原則的に手前側に回してください。

別紙「ミシン各部の名前」を見ながら、各部の名称を確認しておいてください。

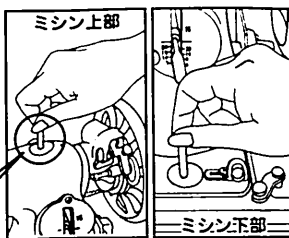


注意

このミシンは非常に重たいですから、くれぐれも指を挟んだりしないように注意してください。
使用時には必ずミシンの下の緩衝材を取り除いてください。

各部の基本的な操作

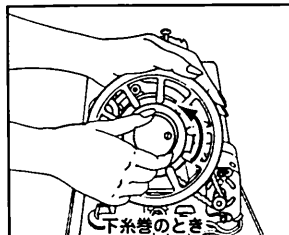
別紙「ミシン各部の名前」のA部
付属品の中にある2本の糸立棒を図の
場所にねじ込む。
(ネジが隠れるくらいまで。付属のド
ライバー大を使う)



丸で囲んだ3つの穴のうち、
まん中の穴にねじ込む。
(穴にネジがきられています)

別紙「ミシン各部の名前」のD部

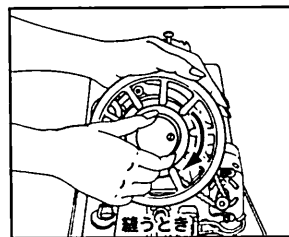
*ストップモーションネジの操作
左手ではずみ車を持ち、右手でストップ
モーションネジを反時計回りに回して
ゆるめると、はずみ車を回しても針
が動かなくなります。



下糸を巻くときにはゆるめます。
(ゆるめ方が十分でない針が動くこ
とがありますから注意してください)

縫うときには同じようにして、今度
はストップモーションネジを時計回
りにしめつけます。

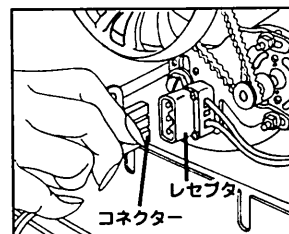
ミシンを使うときには必ず、実際に操
作して確かめてください。



別紙「ミシン各部の名前」のD部

*コントローラの接続

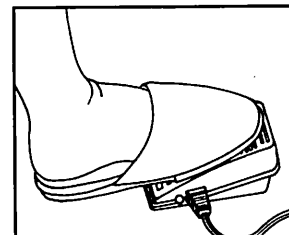
コネクターをミシンのレセプタに差し
込むときは、方向をよく確認してくだ
さい。原則的に、縫うときと下糸を巻
くとき以外は電源コードを抜いておい
てください。



*コントローラの正しい踏み方

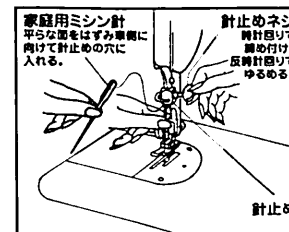
上に物を載せたりせずに、足裏で踏む
ようにしてください。

踏み込み量に応じてミシンの回転が変
化しますから、慣れないうちはあまり
踏み込まないようにします。



*針の交換方法

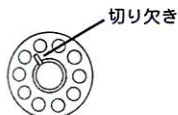
はずみ車を回して針を一番上に上げて
おき、針止めネジを反時計回りにゆる
めて外します。(固い場合はドライバ
ー小を使う) 針の平らな面をミシン右
側に向けて針止めに奥まで差し入れ、
ネジを時計回りにしめます。



注意
ストップモーションネジの操作をよく理
解しておく。
針の交換や、ストップモーションネジを
操作するときには、電源プラグを抜いて
おくこと。

下糸の巻き方 (その1)

別紙「ミシン各部の名前」のC部
 ＊はずみ車を手前に回して、針を上
 上げておきます。
 (基本的に縫うとき以外は常に上
 上げておきましょう)
 すべり板をミシン左側に引いてすべ
 らせて、右下の図のようにポピンケ
 ースのつまみを起こしながらポピン
 ケースを取り出します。
 ツマミを倒すと中のボピンが取り出
 せますので、下図を確認してくださ
 い。



ボピン (付属品も同様)

別紙「ミシン各部の名前」のA部の糸巻軸
 ボピンの軸穴口の切り欠きと、図に示
 した糸巻軸の突起の位置を合わせて糸
 巻軸にボピンの穴を差し込みます。
 (糸巻軸は回転しますので、図の位置
 にはきていないかもしれません)

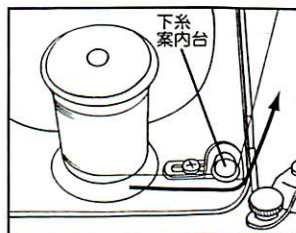
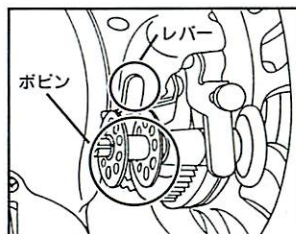
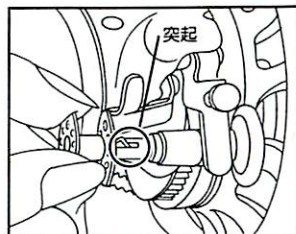
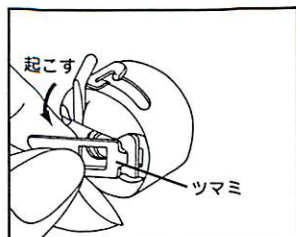
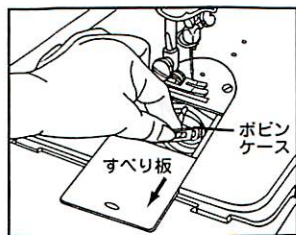
図のレバーの中心と、ボピンの中心が
 同じ位置にすれば正常です。
 こない場合は突起と切り欠きの位置が
 合っていません。

図の右側のノブを指で強く押し付けた
 ままで、先ほどのレバーをロックする
 まで押し下げます。手をはなしてレバ
 ーがボピンに接触していれば正常です。

ミシン下部に立てた糸立棒に付属品の
 フェルトを敷き、ミシン用の糸こまを
 差し入れます。
 次に下糸案内台に糸を図のようにか
 けます。



ここからかける

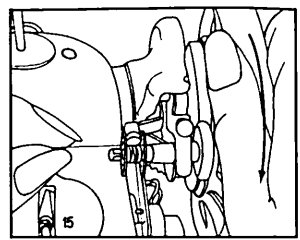


注意

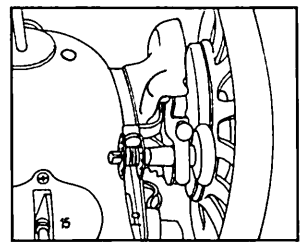
針が上にかかっていること。
 電源プラグを抜いていること。

下糸の巻き方(その2)

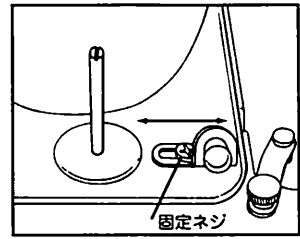
ストップモーションネジをゆるめて針が動かないようにし、ボビンのつばにある穴に図の方向に糸を通し、端を引っ張りながらはずみ車を手前に回して、ボビンに7~8回ほど糸を巻き、余った糸をきります。



コントローラを接続し、最初はゆっくりと踏み込んで糸を巻きます。巻き取りの量は、右側のノブの調節ネジで調節できます。



(右回して少なく、左回して多く)
ボビンの糸巻が片寄る場合には下糸案内台の位置を、右に片寄るときは左に、左に片寄るときは右に調節します。
(固定ネジをゆるめて調節します)
どちらも出荷時に調整されていますので、調節の必要は基本的にはありません。
(多少のズレは生じます)



付録：針と糸の選択（基本例） 製品には14番の針が付属しています

布地の種類	糸の番号	針の番号
薄地 ジョーゼット、オーガンジー、 ポイル、タフタ、絹布など。	綿 80~100 絹 60~80 化繊糸80~100	9~11
普通地 ギンガム、ピケ、リンネル、 サラサ木綿、サテン、 薄手コーデュロイ、別珍、 一般服地など。	綿 50~80 絹 50 化繊糸50~80	11~14
厚地 ギャバジン、ツイード、デニム、 キルティング、コーデュロイ など。	綿 40~50 絹 50 化繊糸50~60	14~16

注意
慣れないうちはゆっくりと回すこと。
はずみ車のストップモーションネジがゆるんでいること。

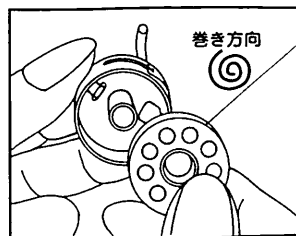
針は家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

下糸ボビンのセット方法

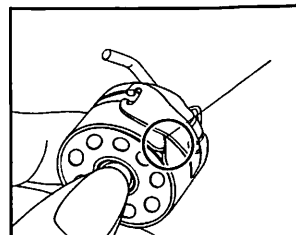
⚠️ 注意

はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。
針が上にながっていること。
電源プラグを抜いていること。

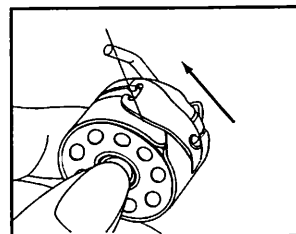
糸巻軸からボビンを抜き、ボビンケースを図の方向に持ち、ボビンを図の巻き方向になるように入れます。



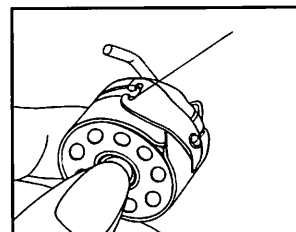
丸で囲んだ部分の切り欠きに糸をかけます。



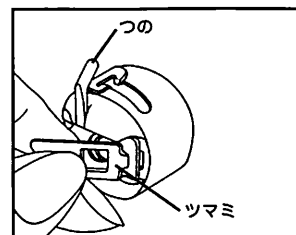
ボビンが回らないように押えながら矢印方向に糸を引きます。



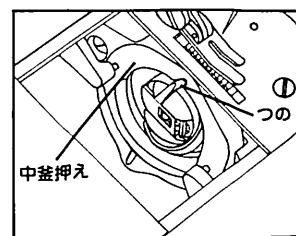
図の位置に糸がくれば、正常な糸の圧力がかかっています。
糸は10センチほど出しておきます。



つのが上側にくるようにツマミを起こして図のように持ちます。

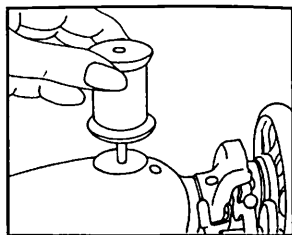


つのと中釜押えの切り欠きの位置が合うように押し込みます。
糸は引っ掛からないようにたらしおきます。

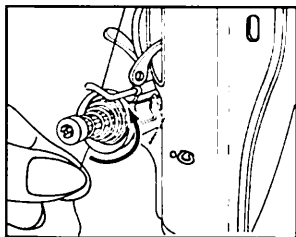
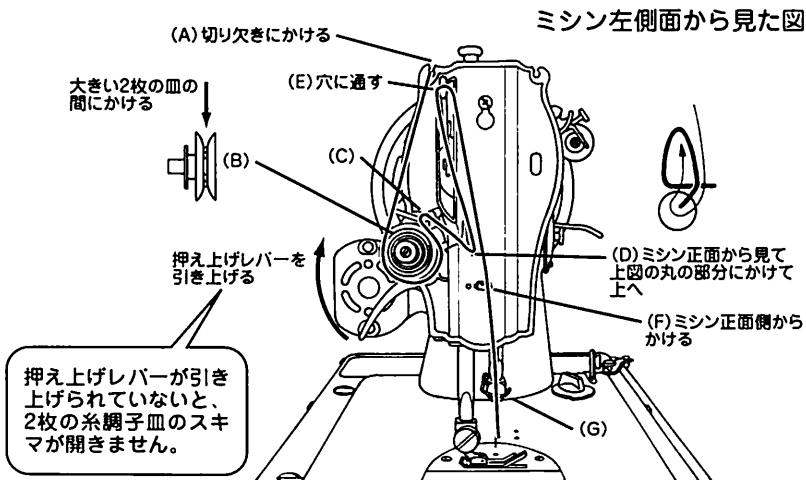


上糸のかけ方

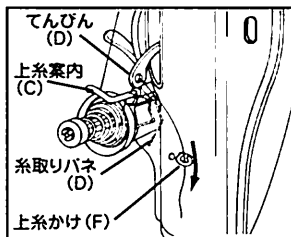
ミシン上部に立てた糸立棒に付属品のフェルトを敷き、ミシン用の糸こまを差し入れます。
基本的には、上糸と下糸は同じ種類の糸を使用します。



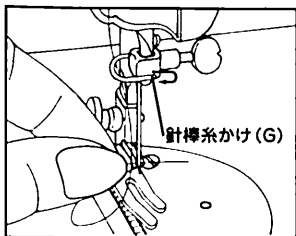
押え上げレバーを上げて押え金を上げ、上糸かけ (A)、糸調子皿 (B)、上糸案内 (C)、糸取りバネ (D)、てんびん (E)、上糸かけ (F)、針棒系かけ (G) の順に糸をかけます。



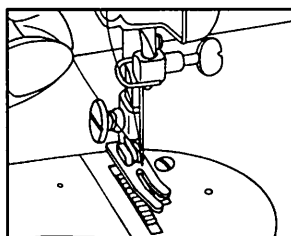
糸調子皿 (B) に糸をかけ・・・



上糸案内 (C)、上糸かけ (F) には図のようにかけます。



針棒系かけ (G) にかけてから、図の方向に針穴に通します。



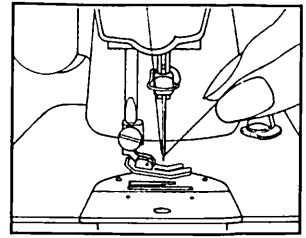
押え金のまたの間にかけて、10センチほど後側にたらししておきます。

注意
はすみ車のストップモーションネジがしまっていること。
針が上に上がっていること。
電源プラグを抜いていること。

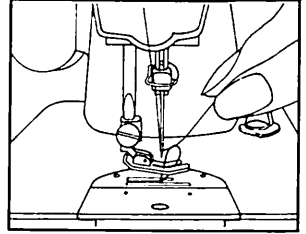
縫う為の準備

下糸の引き上げ／送りの調節

***下糸の引き上げ**
先ほどたらししておいた上糸の端を左手で軽く引きながら、はずみ車を右手で手前に1回転させます。



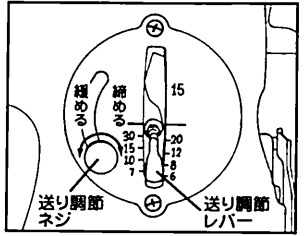
環状に下糸が引き上げられますから、上糸を引いて引き出し、10センチほどミシン後側にたらしおきます。



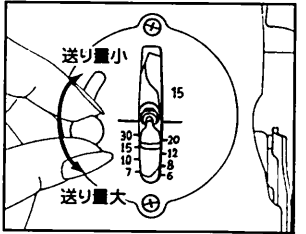
*送りの調節

布送りの長さ調節は送り調節ネジの移動で行ないます。

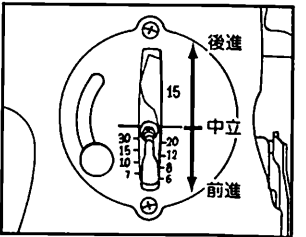
まず、送り調節レバーを上下に動く範囲の中立の位置にし、送り調節ネジをゆるめて、送り調節ネジを円弧状に上下すると、送り調節レバーの動く範囲が変化することを確認してください。送り調節レバーは、下に押し下げると布が前進し、上に引き上げると布が後退します。(中立では布が前後しません)



送り調節レバーの横に書いてある数字は、1インチ(約2.54センチ)あたりの縫い目の数ですので、送り調節レバーを押し下げた時に、自分が求める縫い目の長さの数字の横に、送り調節レバーがくるように、送り調節ネジの位置を調節して、ネジを締めつけます。



*1インチあたりの縫い目
例えば、10の場合、2.54センチ(1インチ)布が進む間に10の縫い目ができます。



これで準備が整いました。操作方法は理解できたでしょうか？

さあ、縫ってみましょう。

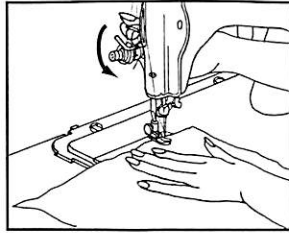
注意

はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。
針が上上がったっていること。
電源プラグを抜いていること。

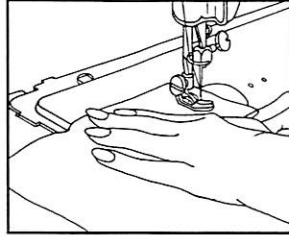
縫ってみましょう

最初のうちは、慣れるまで何回か練習してみましょう。また、糸の調子をみることも必要です。押え金の下に布を差し入れ、押え上げレバーを引き下げて押え金を下ろし、一度手ではずみ車を回して、てんびんが一番上がった状態にしておきます。

*はずみ車はかならず手前に回してください。



布に軽く手を添えながら、コントロールをゆっくりと踏み込みます。針が布を貫くまでは、力が必要ですので、少し強く踏み込む必要があります。最初は加減が難しいかもしれませんが、いきなり強く踏み込むことは、避けましょう。



*糸調子の調節

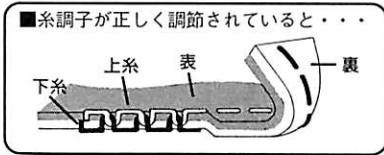
上糸と下糸の調子（張り具合）は上糸調節器（別紙ミシン各部の名前B部）の糸調子ネジで調節します。

糸調子が適切に調節されていないと、縫い目が揃わなかったり糸が絡んだりします。

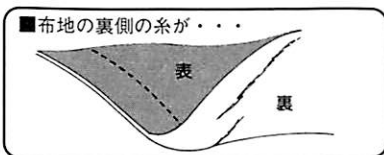
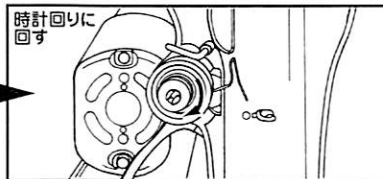
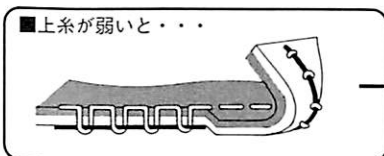
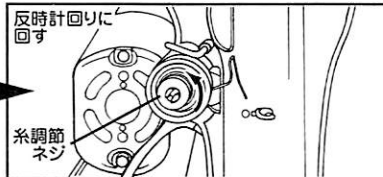
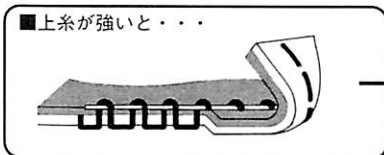
糸調子は、使われている糸や布によっても調子が変わります。

下の例を参考に調節しましょう。

*糸調子ネジは1回転（360度）以上回さないでください。



上糸と下糸が布の中間で交差し、糸のたるみ、布縮みのない状態



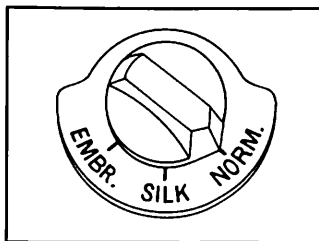
布地の裏側が左図のようになってしまうのは、上糸調子が弱いか、押え上げレバーが上がったままになっているか、上糸が正しくかけられていません。もう一度確認してください。

注意
 はじめはゆっくりと。はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。絶対に針の下に、手を持っていかないと。

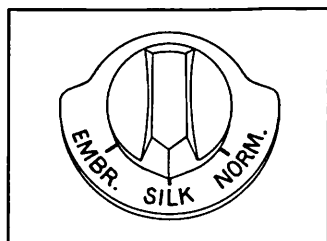
縫うときの操作

*送り歯の調節

送り歯ドロップ装置（「別紙ミシン各部の名前」A部）の使い方。布送り歯の針板からの出具合を、以下のように調節できます。



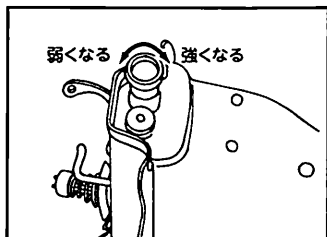
一般的な布地を縫うとき（通常時）送り歯が高く出ます。



薄手の布地を縫うとき送り歯が少し出ます。

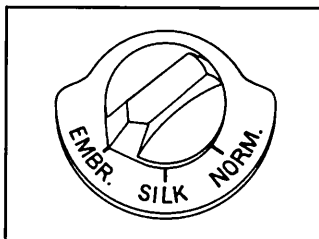
布の厚さによって押え金の布を押さえる力を調節します。一般的には、厚地の場合は強く薄地の場合は弱くします。出荷時には適切な強さに調節されていますので、特に調節の必要はありません。

（「別紙ミシン各部の名前」のB部「押え調節ネジ」）

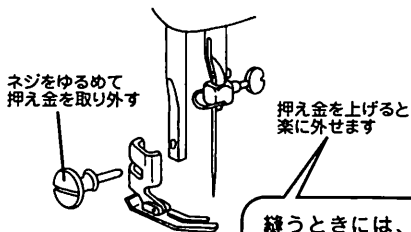


押え金が布を押さえる力を調節する。（ゆるめすぎないようにしてください）

かがりや、刺繍を行なうときは、以下のようにします。



布地を送りません。送り歯が出ません。



ネジをゆるめて押え金を取り外す

押え金を上げると案に外せます

縫うときには、押え上げレバーを下ろすことを忘れないように！

*縫いの方向を変えるときには

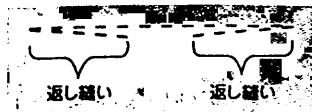
方向を変えたい場所に近付いたらミシンを止めて、手ではずみ車を回して変えたい場所まで進め、針を布に刺した状態にします。（完全に停止してから回してください）それから押え金を上げて布の方向を変え、押え金を下ろして縫います。



*返し縫い

縫い始めと縫い終り、補強したい場所などは送り調節レバーを上へ引き上げて、返し縫いをすると強度が得られます。

（ミシン回転中でも操作できます）

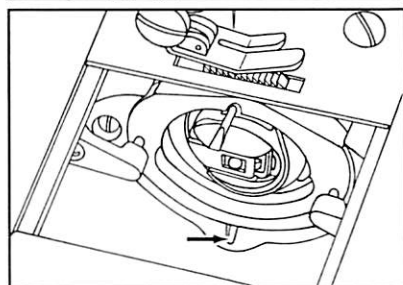
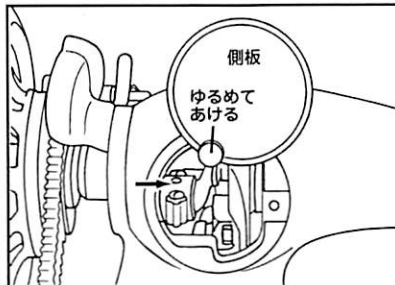
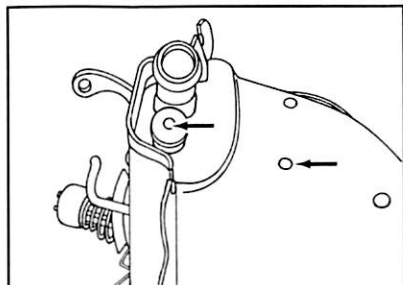
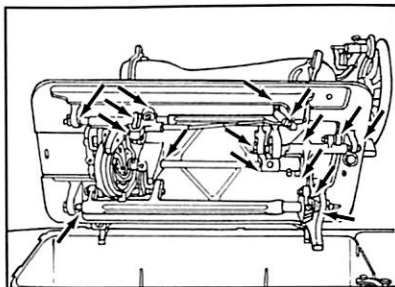
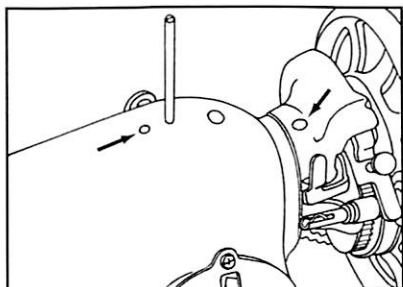


⚠️ 注意

はずみ車のストップモーションネジがしまっていること。

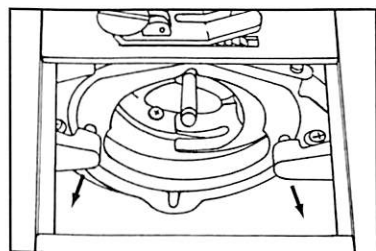
*注油の必要な箇所

*手をはさまないように！



運転時間のべ5時間くらいで、
図の矢印の箇所に油を差してく
ださい。差す量は1滴で十分です。
差しすぎると布や糸に油がつく
原因となります。
付属の油が切れたときは、手芸
店等でミシン油をお求めくださ
い。(絶対にミシン油以外は使
用しないでください)

*釜の手入れ

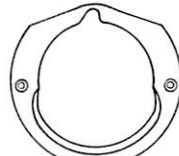


中釜 (トンビ)



釜の位置によって
付く方向が変わり
ます

中釜ふた



矢印の突起を下に
して取り付ける

左上図の黒い押えを矢印の方向に開くと上図の部品が取り出せます。
(ボビンケースは外された状態です) 糸屑などが付着しますので
定期的に掃除してください。
糸が絡んだときなども、同様にして取り除きます。

ミシンの手入れ

⚠️ 注意

ミシンが倒れないようにすること。
油をつけすぎないこと。
手入れのときは電源プラグを抜いていること。

●こんなときは

●縫い目がとぶ

- ・針は正しく取り付けられていますか？（3ページ）
- ・針先が傷付いたり曲ったりしていませんか？（下図）
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。（5ページ）

●針が折れる

- ・布を引っ張りすぎると様々な障害がでます。軽く手を添えるだけにしてください。
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。（5ページ）
- ・押え金や中釜など、確実に取り付けられていますか？（10.11ページ）

●上糸が切れる

- ・糸のかけ方を確認してください。（7ページ）
- ・上糸調子が強すぎる。（9ページ）
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。（5ページ）
- ・釜に糸が絡まっています。取り除いてください。（11ページ）
- ・てんびんを一番上の位置にしないでスタートさせていませんか。（9ページ）

●上糸がからまる

- ・糸のかけ方を確認してください。（7ページ）
- ・上糸調子が弱すぎる。（9ページ）
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。（5ページ）
- ・釜に糸が絡まっています。取り除いてください。（11ページ）

●下糸が切れる

- ・ボビンケースへの糸のかけ方を確認してください。（6ページ）
- ・ボビンケースのセットのしかたがまちがっている。（6ページ）
- ・下糸調子が強すぎる。（下図）
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。（5ページ）
- ・釜にゴミがたまっています。取り除いてください。（11ページ）

●縫い目が乱れる

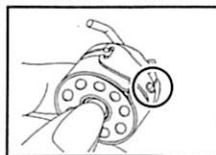
- ・送り歯の高さの設定を変えてみる（10ページ）
- ・押え金の強さを変えてみる。（10ページ）
- ・布送り長さが小さすぎる。（8ページ）
- ・針と糸の選択が適切であるかを確認してください。（5ページ）
- ・布を引っ張りすぎている。

■正しい針の選び方

※不良針を使いますと、良く縫えないばかりでなく、針板やカマにキズをつけたり針を折ったりします。



■下糸調子の調節



左図ボビンケースの、丸で囲んだネジを左に回すと弱くなり、右に回すと強くなります。この調節は非常に微妙な為、できるだけ上糸のほうで調子を揃えるようにし、慣れた方以外は行わないようにしてください。（出荷時に最適な状態に調節されています）

●修理サービス要領

■修理サービスのご相談

1. このマシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則として当社が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、本社お客様相談係へお申しつけください。

■修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

■無料修理保証期間後の修理サービス

1. 取扱い説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備、または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
2. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
3. 長期間にわたってご使用されたマシンの精度の劣化は、修理によって元どおりに修理できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金交通費および技術料金の合計額となります。

修理時送付先


〒544-0022

大阪市生野区舍利寺3-12-5 TEL06-6717-5851

(株)アックス・ヤマザキ サービス係

※ご送付のときは、このマシンの箱と発泡スチロールに収納してください。

お客様相談係

0120-40-5851

(AM9:00~12:00/PM1:00~5:00 日曜祭日土曜休み)

総発売元

株式会社 アックスヤマザキ 


〒544-0022 大阪市生野区舍利寺3丁目12番5号
TEL (06) 6717-5851～3 / FAX (06) 6741-7875

サービス工場のご案内

ご購入いただきましたマシンは、下記の工場で点検修理、交換等のサービスを行います。尚、サービスには有償と無償の場合がありますので、「お客様相談係」にお問い合わせの上、サービス工場にご送付ください。

操作方法のお問い合わせなども、下記フリーダイヤルにて受け付けております。

お客様相談係

0120-40-5851

(AM9:00～12:00 / PM1:00～5:00 日曜祭日土曜休み)

送付先

〒544-0022

大阪市生野区舍利寺3-12-5 TEL06-6717-5851

(株)アックス・ヤマザキ サービス係行

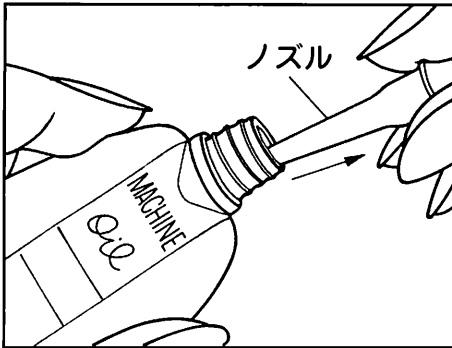
※ご送付のときは、このマシンの箱と発泡スチロールに収納してください。

●付属品の使い方

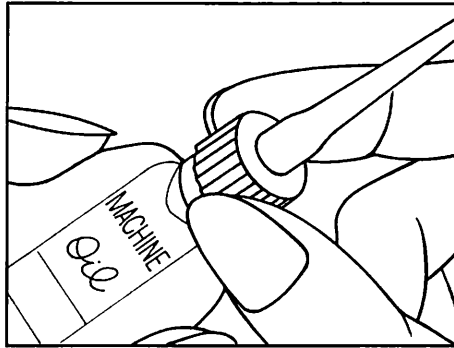
取扱い説明書を見るときに一緒にご覧ください。

油差しの使い方

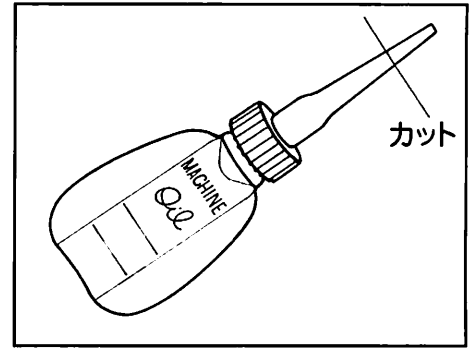
油が漏れることもありますから、注意してください。



中の油がこぼれないように、キャップを開けてノズルを取り出します。



ノズルを入れ替えてキャップを締めます。

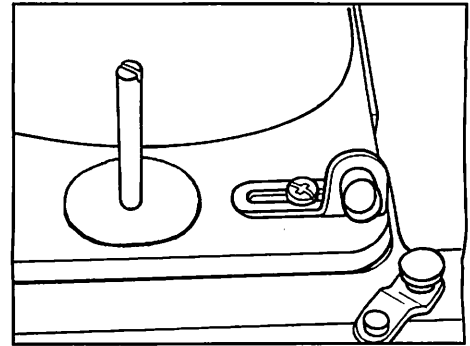
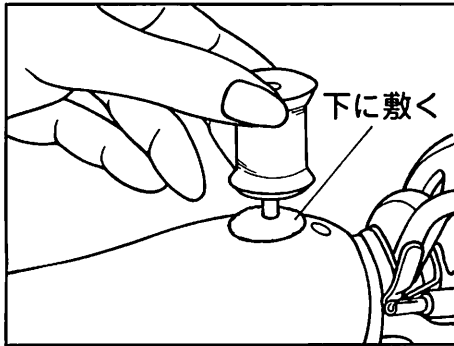


油が出る位置まで（約1cm）、ノズルを切ります。

フェルトの使い方

ミシンの保護の為に、必ず使用するようになっています。

糸こまをミシンにセットする際に、下に敷きます。
紛失したり、やぶれたりした場合は、有り合わせのフェルトを切り抜いてください。



その他

- ・針やドライバーの袋を開封する際には、ケガをしないよう十分注意してください。
- ・針の袋を開封する際に、針を傷つけないように注意してください。
- ・糸立棒をねじ込むときには、曲らないように注意してください。
- ・油差しは油が漏れることもありますから、付属品入れの中に入れておいてください。
- ・コントローラのコードは、プラグ以外のところを引っ張らないようにしてください。
- ・ミシンケースの上には、物を載せないようにしてください。

■ HA-1製品仕様

ミシン本体（頭部）

幅・・・37.2cm（ベッド部）
奥行き・17.8cm（ベッド部）
高さ・・・・・・・・28cm
重量・・・・・・・・10.7kg

ケース設置状態

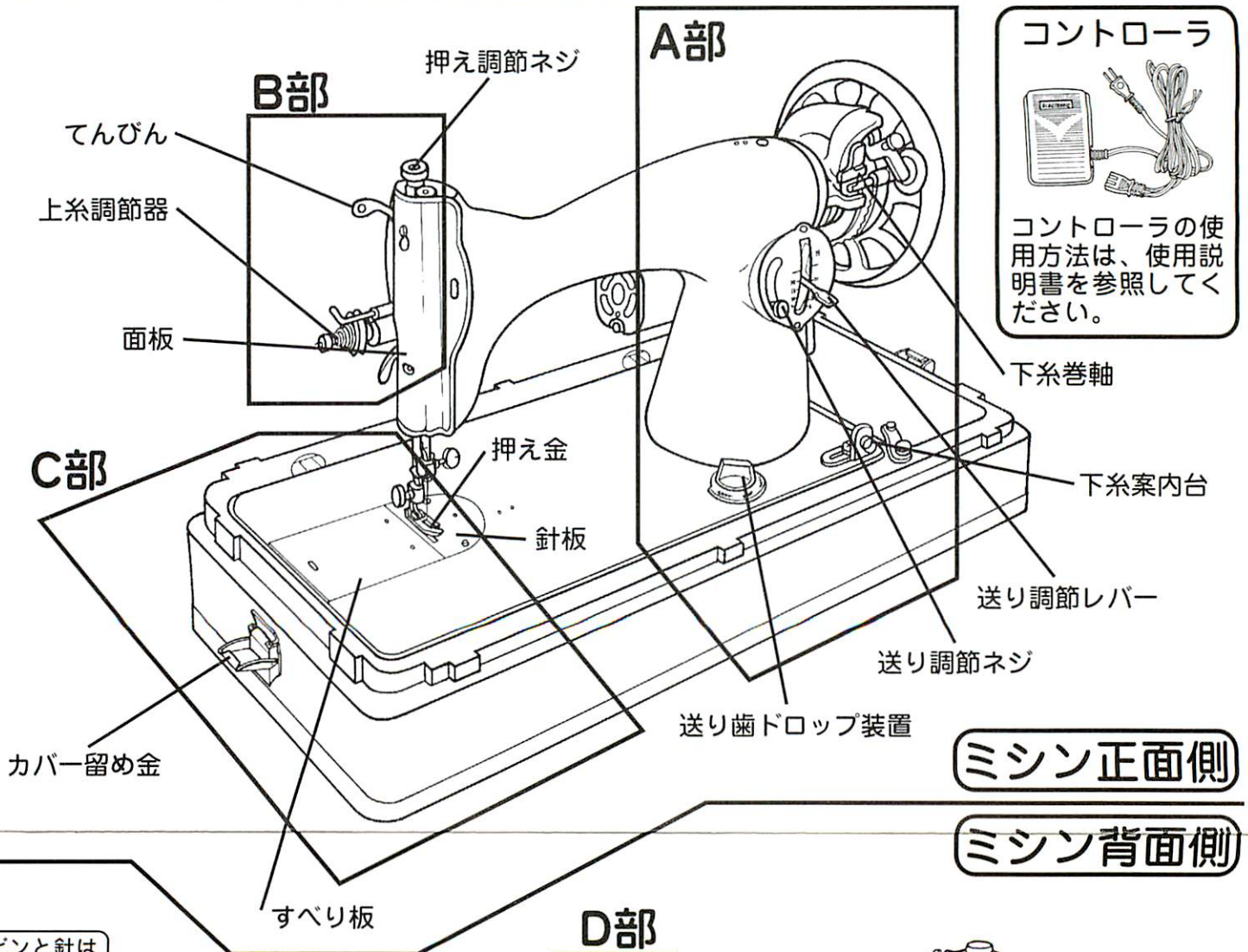
幅・・・・・・・・53cm
奥行き・・・・・・・・22cm
高さ・・・・・・・・36cm
重量・・・・・・・・15.3kg

電気仕様

定格電圧・・・・・・・・100V
周波数・・・・・・・・50/60Hz
消費電力・・・・・・・・90W

●ミシン各部の名前

取扱い説明書を見るときに一緒にごらんください。



コントローラ

コントローラの使用方法は、使用説明書を参照してください。

ミシン正面側

ミシン背面側

ホビンと針はミシン本体にもセットされています。

付属品

ボビン3個

ドライバー (大/小各1本)

油差し

糸立棒2本

フェルト2枚

針1パック (#14HA/3本)

付属品の使用方法は、裏面と使用説明書を参照してください。

